

ミディアムゲージ・フラットワウンドの弦に、ミディアムサイズのピック がヒットした瞬間、彼のイバニーズは、「愛」について語りはじめる。



ジョージ・ベンソン。1944年3月22日、ペンシルヴァニア州ピッツバーグの生まれ。貧しく、恵まれず、絶望的な環境に生まれ育ったと聞く。スポーツか音楽が彼らに残された僅かな将来性のチャンスだった。彼は後者に賭けた。ジョージと我々のつきあいは長く深い。スタッフがジョージについて語るときは、思わず遠くを見る目つきになる。ハッピーそのものの彼のミュージックを愉しむときも、彼の語る生い立ちのことや、家族のことがオーバーラップし、やるせない感情をおさえることができない。
現在、ジョージはハワイに大勢の家族とともに暮らしている。本当に目に入れても痛くないといった風情の子供たちに、たっぷりとした陽光とフリーダムな貿易風をプレゼントして暮らす。彼はここから仕事場へ出かける。彼のようなオネストマンを私たちは知らない。彼が唄う。彼がギターを弾く。彼が汗を流す。彼が笑う。彼が泣く。それらはすべて、彼の「愛についての行為」に他ならない。

GB10

ジョージのアドヴァイスをもとに、繊細な心くばりをほどこしたファンキーでポップなギター。透明で澄んだ音色が特色。ステアリングアクトに自由をもたらすスモークサーサイズが、フィードバックも解消。高音弦側と低音弦側のチャンネルを自在に架えられるデュアルチャンネル・テイルピースとフローティングマウントのピックアップは、Bodyの振動を快して妨げません。又、ホーンとフラスを組み合わせたハーフ・アンド・ハーフナットが開放弦のトーンを統一します。エリック・クラプトンの厚友、アルバート・リーが目下精力的に使用中。[写真のギターは、ジョージによって「ゲイブ」にリジが施されています]

